

合掌造りの民家

白川郷の伝統的な茅葺き屋根の農家は、「合掌造り」の様式で建てられています。この合掌造りという名前は、傾斜が急な屋根でできた三角形の形が、両手を合わせて祈っているように見えることに由来しています。この合掌造りの民家では、両方の屋根の間の部分である「切妻」（壁の三角形の部分）は、風と日光にさらされたままになります。この合掌造りの様式は、白川郷独自の環境、気候、産業に対応するために生み出されたのです。合掌造りの屋根は傾斜しているため、白川郷でよく見られる大雪が屋根に積もって家を損傷させるのを防ぎ、また切妻の保護されていない壁は、雨の時に家をできるだけ乾いた状態に保つためにわずかに外向きの角度で作られています。これらの壁には、通常は日光と空気を多層の屋根裏部屋に取り入れるためのいくつかの大きな窓があります。この合掌造りの民家は、20 世紀の最初の数十年まで、白川郷の主要な産業である養蚕業に伝統的に使用されていました。